

令和 7 年度

「運営に関する計画」
(中間評価)



大阪市立淀川中学校

令和 7 年 1 1 月

大阪市立淀川中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は不登校生徒の増加、家庭での学習習慣が身につけていないことが課題として挙げられる。令和5年度より「**全学年2学級を3学級展開による少人数授業**」「**学びルーム(いわゆるスペシャルサポートルーム)の設置、整備**」を大きな柱として、全教職員が総力をあげて取り組んだ。その結果、一定の成果はあったものの、全国学力学習状況調査や大阪府チャレンジテスト(大阪市 plus も含む)の数値を検証すると、まだまだ改善の余地はある。今年度は「全学年2学級を3学級展開による少人数授業」については3年生のみとなったが、従来より取り組んでいる**ICT機器の活用**のさらなる『**進化**』、「**主体的・対話的で深い学び**」の要素を取り入れた授業の『**推進**』、3年間で系統立てされた「人権学習」、「平和学習」、職場体験学習、職業講話などの「キャリア教育」、「健康教育」「性教育」「食育」、地域・区役所・消防署と連携した「防災学習」などを大きな軸とした**総合的な学習の時間の『充実』**を継続して図っていく。また、学校元気アップ地域本部の方々の協力のもと、家庭学習用プリントを印刷していただき、学習に向かうきっかけとする取り組みも継続しておこなっていく。

中期目標 … 大阪市教育局振興基本計画(R6.3 中間見直し版)より抜粋**【安全・安心な教育の推進】**

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合【全国学力・学習状況調査】を令和7年度末までに85.0%以上にする。

○不登校児童生徒の在籍比率の対全国比【本市独自調査】を令和7年度末までに1.30%以下にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○「学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童生徒の割合【全国学力・学習状況調査】を令和7年度末までに35.0%以上にする。

○CEFR A1レベル(英検3級)相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)【大阪市英語力調査】を令和7年度末までに56%以上にする。

○「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合【全国体力・運動能力、運動習慣等調査】を令和7年度末までに53.6%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、児童生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の半数を超えた学校の割合【本市独自調査】〔ただし、学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕を令和7年度末までに75%以上にする。

○教員の勤務時間の上限に関する基準2(本市基準)〔1年間の時間外勤務時間が720時間以下、時間外勤務時間が45時間を超える月数6以下、時間外勤務時間が100時間を超える月数0、直近2～6か月の時間外勤務時間の平均が80時間を超える月数0、を全て満たす。〕を満たす教職員の割合を令和7年度末までに84.9%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

○年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を87.3%以上（昨年度87.2%）にする。

○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を77.0%以上（昨年度76.9%）にする。

○年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度（令和6年度末20.8% 47人／在籍226人）より減少させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○年度末の校内調査における「学校の授業は分かりやすい（楽しい）」に対して、最も肯定的な回答をする生徒の割合を53.9%以上（昨年度53.8%）にする。

○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を44.2%以上（昨年度44.1%）にする。

○中学生チャレンジテストにおける、国語と数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント以上（目標値：現中2国語0.88 数学0.86 現中3国語0.88 数学0.82）向上させる。

○大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を29.2%以上（昨年度29.1%）にする。

○年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を57.5%以上（昨年度57.4%）にする。

【学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。（昨年度3.7%・〔7日/190授業日〕〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕

○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2〔1年間の時間外勤務時間が720時間以下、時間外勤務時間が45時間を超える月数6以下、時間外勤務時間が100時間を超える月数0、直近2～6か月の時間外勤務時間の平均が80時間を超える月数0、を全て満たす。〕を満たす教職員の割合を77.0%以上（令和6年度末76.9%）にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

年度末に記載

(様式2)

大阪市立淀川中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 ○年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を87.3%以上(昨年度87.2%)にする。 ○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を77.0%以上(昨年度76.9%)にする。 ○年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度(令和6年度末20.8% 47人/在籍226人)より減少させる。	-

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【1-1 いじめへの対応】(生活指導部部長) 年3回のいじめアンケートの実施、いじめ対策委員会の運用をおこない、いじめの未然防止とともに、発生したいじめ事案に早急に対応する。 指標 (2学期末段階での)いじめの未解消件数を0にする。	B
取組内容②【1-2 不登校への対応】(生徒指導主事) 担任・学年教員による該当生徒・保護者へのアプローチはもとより、学びルームの積極的な運用と生活指導部会、いじめ不登校対策委員会やSC会議等で情報共有をおこない、学校全体で不登校への対応にあたる。 指標 (2学期末段階での)不登校生徒の在籍比率を前年度末(20.8%)より減少させる。	B
取組内容③【1-3 問題行動への対応】(生活指導部部長) 生徒指導主事、生活指導部長が主導のもと、全教職員で規範意識の高い生徒集団の育成をおこなう。 指標 生徒アンケートにおける「学校のきまりを守っている」に対して、最も肯定的な回答をする生徒の割合を62.7%以上(昨年度62.6%)にする。	B
取組内容④【2-1 道徳教育の推進】(道徳教育推進担当) 道徳教育推進担当が主導のもと、道徳の授業はもとより、学校での教育活動を通じて、全教職員で自尊感情が高い生徒集団の育成をおこなう。 指標 生徒アンケートにおける「自分には良いところがあると思う」に対して、最も肯定的な回答をする生徒の割合を48.3%以上(昨年度48.2%)にする。	B
取組内容⑤【2-2 キャリア教育の充実】(進路指導主事) 進路指導主事が主導のもと、3年間で職業講話、職場体験学習、高校出前授業、進路学習などを計画的におこない、全生徒に職業観、進路観を身につけさせる。	B

指標 生徒アンケートにおける「自分の将来や就きたい仕事など、自分の進路について考えたことがある」に対して、最も肯定的な回答をする生徒の割合を52.9%（昨年度52.8%）以上にする。	
取組内容⑥【2－3人権を尊重する教育の推進】（人権教育担当・外国人教育担当） 人権教育担当・外国人教育担当が主導のもと、3年間で障害者差別問題、在日外国人差別問題、部落差別問題を3つの大きな軸を中心として計画的に取り組みを実施し、全教職員で人権意識の高い生徒集団の醸成をおこなう。	B
指標 生徒アンケートにおける「自分や仲間を大切にしている」に対して、最も肯定的な回答をする生徒の割合を66.3%以上（昨年度66.2%）にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①学期に一回のアンケートをとっている。いまのところいじめ未解消は起きていない。 ②今年度も学びルームの利用は継続的に行っている。1学期にいじめ不登校対策委員会及びSC 会議・スクリーニング会議②を通して、不登校生徒や配慮が必要な生徒の情報共有を行った。2学期、3学期も同様に行う。 ③生徒アンケートの肯定的な内容が多くなるように、各学年で指導を行っていく ④生徒アンケートの肯定的な回答の割合が多くなるように、各学年で授業に取り組んでいる。 ⑤1学期に2、3年生では高校出前授業（公立、私立）と事前学習を行い、自身の進路について考えた。2学期には2年生でSP トランプを行い、自身の性格について考えた。2年生の職業体験はこれから行う。 ⑥今年度に入り、中国からの生徒が増え、全職員でサポートに当たっている。また、講師を招いての外国人教育も行い、人権教育の強化を図っている。	
次年度への改善点	
① ② ③ ④ ⑤ ⑥	

(様式2)

大阪市立淀川中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○年度末の校内調査における「学校の授業は分かりやすい(楽しい)」に対して、最も肯定的な回答をする生徒の割合を53.9%以上(昨年度53.8%)にする。 ○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を44.2%以上(昨年度44.1%)にする。 ○中学生チャレンジテストにおける、国語と数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント以上(目標値: 現中2国語0.88 数学0.86 現中3国語0.88 数学0.82)向上させる。 ○大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を29.2%以上(昨年度29.1%)にする。 ○年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を57.5%以上(昨年度57.4%)にする。	-

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4誰一人取り残さない学力の向上】(国社数理英教科主任) 学力向上を第一の目標に、質の高い授業を全学年、全教科でおこなう。《1,2年生のチャレンジテストの結果は年度末ぎりぎりまで分からないため、指標の数値目標は3年生のみとする》 指標 (3年生)大阪府チャレンジテストの対府比を前年度2年生時より向上させる。(国語0.88以上、社会0.73以上、数学0.82以上、理科1.02以上、英語0.83以上)	B
取組内容②【4-2「主体的・対話的で深い学び」の推進】(校内研修主担・国社数理音美保体技家英教科主任) 校内研修主担者の主導のもと、全教員が年間1回の研究授業をおこない、全教職員が相互に参観し、授業スキルを高める。また、それぞれの教科の特性を活かした「主体的・対話的で深い学び」の要素を取り入れた授業の展開を積極的におこなう。 指標 生徒アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な回答をする生徒の割合を44.2%以上(昨年度44.1%)にする。	B
取組内容③【5-1体力・運動能力向上のための取組の推進】(保体教科主任) 保健体育科教員が主導のもと、保健体育の授業はもとより、部活動(特に運動部)、学校行事、日々の教育活動を通じて、全校生徒の体力・運動能力向上を目指す。	B

指標 生徒アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な回答をする生徒の割合を57.5%以上（昨年度57.4%）にする。	
取組内容④【5-2 健康教育・食育の推進】（健康教育部長・給食・食育担当者） 健康教育部長（保健主事も含む）が主導のもと、全校生徒に「規則正しい生活習慣」「健康なからだづくり」を身につけさせることを目標とする健康教育に関する取り組みおよび学校保健計画の策定を行う。また、給食・食育担当者が主導のもと、全校生徒に「食育」に関する取り組みをおこなう。	B
指標 生徒アンケートにおける「朝食を毎日食べている。」に対して、否定的な回答をする生徒の割合を15.8%以下（昨年度15.9%）にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①【国語】チャレンジテストの結果が出ていないため、結果が出次第分析する。 【社会】チャレンジテストの結果が出ていないため、結果が出次第分析する。 【数学】チャレンジテストの結果が出ていないため、結果が出次第分析する。 【理科】チャレンジテストの結果が出ていないため、結果が出次第分析する。 【英語】チャレンジテストの結果が出ていないため、結果が出次第分析する。 ②【研修主担】順調に研究授業を実施できている。 【国語】自分の考えを記述したものを使って交流し合い、互いに考えを広げたり深めたりする活動や、単元ごとの振り返りで自分の考えたことなどを言語化するということを進めている。 【社会】授業時に教えあいや話し合いの時間を取っている。また単元終わりに復習を行い。テスト後に再テストを実施している。 【数学】単元終わりや、テスト後に再確認として班で演習に取り組み、教え合いを通じて主体的・対話的な学習活動を行っている。 【理科】問題を解くときなどに話し合いの時間をつくっている。また、主体的に取り組めるようにプリントを用いて、基礎的な問題での総復習を実施している。 【音楽】ペアやグループで自分の考えたことを伝え合う場面を多く作っている。 【美術】班で作品制作を行うとき、互いの作品を見あったり、やり方を教えあったりして試行錯誤しながら実施している。 【保健体育】多くの単元で教えあい話し合いの機会を作り対話ができるようにしている。 【技術】実習の単元では、各々に役割を決めコミュニケーションが取れるように取り組んでいる。 【家庭】実験・実習の授業では、生徒が教えあい・学びあう機会を多くもつことができるよう心掛けている。 【英語】単元ごとにペアワーク、および発表などを行う機会を増やしている。 ③【保健体育科】体力・運動技能の向上を目指すために、さまざまなスポーツを取り入れ、体で表現するもの、道具を使用するもの、道具を用いて道具を扱うものなど、いろいろな可能性を引き出せるように授業展開をしている。 ④【健康教育】整美委員会で、手洗い石鹸の補充、換気などを行い、日々の健康に努めている。前期整美委員会では、救急救命講習を受講し、それを文化祭で舞台・展示発表した。危機管理意識を高めることができたと考えている。後期の委員会でも取り組む予定である。 【食育】整美委員会で、昼食時に行事食の給食献立の紹介をする放送を行っている。文化祭で給食についての舞台・展示発表に取り組んだ。外部講師に来ていただき、全学年で、「早	

寝・早起き・朝ごはん」について学んだ。2年生では、教科と連携し、「元気がでる朝食レシピ」を考え、実際に調理し、朝食の大切さについて考える機会を作り、文化祭で展示発表した。

次年度への改善点

- ①
- ②
- ③
- ④

(様式 2)

大阪市立淀川中学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】 ○授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。(昨年度末 3.7%) [ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く] ○第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に揚げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 [1 年間の時間外勤務時間が 720 時間以下、時間外勤務時間が 45 時間を超える月数 6 以下、時間外勤務時間が 100 時間を超える月数 0、直近 2~6 か月の時間外勤務時間の平均が 80 時間を超える月数 0、を全て満たす。] を満たす教職員の割合を 77.0%以上 (令和 6 年度末 76.9%) にする。	-

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【6－1 ICTを活用した教育の推進】（ICT 担当） 生徒に授業や家庭学習などで、ほぼ毎日のように学習者用端末に触るような働きかけを各教科、各学級、各学年とさまざまな方向からおこなう。また、今年度も全生徒が「心の天気」を毎日入力するよう、全教員で指導していく。 指標（12 月末で）授業日において、生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50％以上（昨年度末 3.7％）にする。	B
取組内容②【7－1 働き方改革の推進】（管理職） 「学校園における働き方改革推進プラン」に基づき、「働き方改革」の意識を全教職員に醸成する。教育の質を落とすことなく、「45 分授業・週 28 コマ」の導入などを含む業務の効率化や軽減、学校行事や諸会議などの精査や精選を学校全体でおこなう。 指標（12 月末での）第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合を 77.0％以上（昨年度末 76.9％）にする。	B
取組内容③【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】（管理職） 「開かれた学校」を目指すために、学校からの家庭・地域への情報発信を積極的におこなう。その際に、従来の紙ベースだけにとらわれることなく、本校ホームページやミマモルメを効果的に活用する。 指標（12 月末での）今年度の本校ホームページのアクセス数を昨年度以上にする。 《昨年度 12 月末アクセス数 34155（昨年度末 44635）》	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① 1 学期は心の天気の入力や navima の活用も指標に達してはいなかったが、夏休みの活用以降から 2 学期中盤にかけて利用率が高くなっている。 ② 教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合は、88.5％（令和 7 年 9 月末段階）と指標を超える結果である。	

③今年度４月から９月までの上半期の今年度の本校ホームページのアクセス数は「28738」と、２倍すると指標の数値（昨年度末アクセス数）は見込まれる。これからも、アクセス数だけにとらわれることなく「必要な情報」を「タイムリー」に発信し、保護者・地域の方々にも「開かれた学校」と感じていただけるように心がける。

次年度への改善点

- ①
- ②
- ③